

## 社会科 公民分野への導入としての新聞活用

指定校2年次 上田市立第一中学校 山内 安芸

### I 本校の新聞活用（N I E）の現状

本校は昨年度よりN I Eの研究指定校となり、社会科の教科の中で実践をすることとなった。いざ研究を進めるに当たり、身近にあるはずの新聞が、ネットの普及により新聞を購読していない家庭も増えていて、実は遠い存在になってしまっていることを改めて感じた。世の中をそのまま映し出している新聞をもっと身近なものにできないか・・・そんな思いを胸に、実践をスタートさせた。

一年目は、まずは環境を整えることから取り組み、新聞コーナーを設けたり、新聞スクラップに取り組んだり、新聞に触れる機会を増やしていった。

そんな中で、丁度去年は戦後70年目に当たる年であり、各社の記事の中に戦争の特集が多く組まれていたため、生徒たちの選ぶ記事も戦争に関するものが自然と増えていった。そこで、3年生の歴史の学習のまとめとして特設単元を組み、新聞から戦争を学ぶ授業「戦後70年のスクラップ新聞を作ろう」を実践した。太平洋戦争の学び直しを基礎に据え、70年前の『戦争』が70年後の今日にも名前を変え、形を変え、存在していることに気づき、『戦争』についての思いや考えが深められると考えた。

### II 実践のねらい（育てたい力）

本校の社会科の研究テーマ

「豊かな見方や考え方をもち、問題解決を身につけていく社会科学習はどうあったらよいか。～新聞を手がかり社会事象を身近なものにし、いろいろな側面や立場から事象に向き合い、自ら発信できる場面設定～」

をふまえ、以下のように考える。

- 1 自分の考えを持ち、それを表現できる
- 2 読解力の育成
- 3 事象を多角的・多面的に考えることができる。

様々な事象を知識として理解しようとする生徒達に、自分の考えをもち、それを表現したり発信したりすることができるようにしたいと考える。そのためには読解力が不可欠であり、情報量の多い新聞記事を基に学習を進めていくことにより、読解力が育つことが期待される。また、授業の中で「読む」「書く」「聞く」「話す」活動を多く仕組むことも可能である。



### III 研究の概要

新聞や社会での出来事への関心を高める取り組み

- (1) 新聞閲覧コーナーの設置

### ① 2階エントランスホール

- ・長机を並べ、そこに毎日、新聞を置き、自由に閲覧できるようにした。
- ・通常4紙（信毎、朝日、産経、読売、日経、毎日から）※新聞店より配達されたもの

### ②各学年棟2階ワークスペース

- ・各学年棟にあるテーブルの上に置き、自由に閲覧できるようにした。
- ・信毎1紙のみ※職員の家庭にあるもの

### (2) 新聞記事の掲示

- ・各学年棟2階ワークスペースに、時々、新聞記事をコピーして掲示した。
- ・中学生にも分かりやすく、興味関心の高そうなこと、興味関心を持ってほしいことを選んで掲示した。
- ・記事の簡単な説明や考えてほしいことを書き添えた。



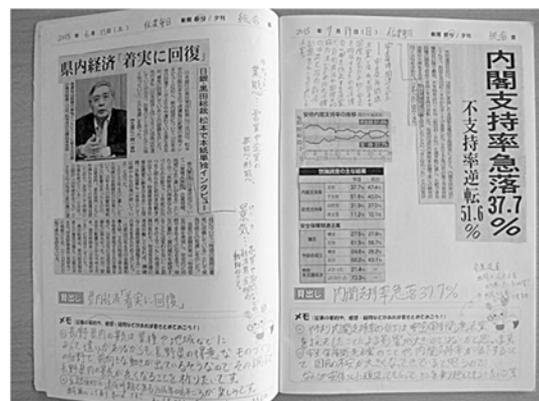
### (3) スクラップ収集

- ・信毎さんからいただいたスクラップ帳を活用し、毎週、気になった記事をそこに貼り、コメントを添えて提出させた。
- ・課題として扱い、学期末に評価して、成績にも反映させた。

### (4) 授業実践

#### ①毎時間の取り組み

- ・今、授業で学習していることと私たちが生活している社会とをつなげるために、授業では学習していることに関連するような新聞記事をできるだけ活用することを心がけてきた。
- ・信毎さんのデータベースも活用している。



#### ②研究授業

##### 【单元名】

「新聞から現代社会を見つめる」（3学年・公民的分野・10月19日実施・小林敏光教諭）

##### 【单元設定の理由】

授業クラスの生徒達は、社会的事象に興味・関心をもつ生徒が多く、授業の中でも挙手や発言があったり、日々の学習カードには多くの感想や疑問を書いてきたりと、積極的に社会科を学習する意欲がある生徒が数多くいる。その様な生徒たちに、これから生きる現代社会がどのような社会なのか、教科書や教師

側からの教授ではなく、自ら見出してもらいたい。その教材として新聞記事が適していると考えられる。

新聞記事には、現代社会の特色が事件や事故、地域の紹介として様々な内容が毎日掲載されている。そのような今起きていることをリアルタイムに知ることができる点が新聞記事のメリットであり、新聞記事は、現代社会の特色を数多く映し出す鏡であると言える。また、新聞記事を扱うことにより、読解力や表現力の伸長が期待できる。

そこで、本単元では、読解力や表現力の伸長を図ると共に、現代社会がどんな社会なのかを理解するために、新聞記事から現代社会の特色を見いだすだけではなく、ポスターセッションを行うことで、表現力、伝える力の伸長も見込まれる。また、ポスターセッションではほかの班の発表を聞くことで、さらに広く深く現代社会の特色に迫れるのではないかと考える。以上の理由から、本単元を設定した。

**【単元目標】**

(1) 主目標

現代社会はどのような社会なのか、という観点から、班ごとに現代社会の特色を表すような記事を見つけて、ポスターにまとめ、新聞記事から現代社会に〇〇化と表題をつけ、現代社会の紹介をすることができる。

(2) 具体目標

**A 【社会的事象への関心・意欲・態度】**

- ア 現代社会はどのような社会なのか、新聞記事から興味・関心をもって進んで追究しようとする。
- イ 持ちよった新聞記事をグループの友とともに考察し、進んでポスターにまとめたり、話し合いに参加したりしようとする。

**B 【社会的な思考・判断・表現】**

- ア 新聞記事の内容から、他の新聞記事との共通性を見出したり、既習事項と関連づけたりして、ポスターにまとめている。
- イ 各班のポスターセッションを聞いて、それをもとにしながら現代社会はどのような社会なのか、を文章で説明できる。

**C 【資料活用の技能】**

- ア 新聞記事から、適切かつ必要な記事を収集できる。
- イ 見出しだけにとらわれず、新聞記事の内容や図から、現代社会の特色について考察できる。

**D 【社会的事象についての知識・理解】**

- ア 現代社会がどのような社会なのかを社会的事象をもとに理解できる。
- イ 現代社会の特色として、主にグローバル化、情報化、少子高齢化の3つがあることを理解できる。

**【単元展開と本時の位置】 (50分授業 全6時間扱い 本時は第5時)**

学習問題	学習課題	学習活動(学習内容)	評価	時
現代社会にはどんな特色があるのだろうか？	1 新聞から、現代社会の特色がわかる記事を探そう。	・7班に分かれ、現代社会の特色が表れている記事を探す。7月までの新聞から最低限2つの記事。夏休み中にさらに2つの記事を探す。	・自ら進んで、新聞を読み込み、多くの記事を探している。 【Aーア】 ・示された観点をもとに、観点到った新聞記事を探してくる。 【Cーア】	1
	2 現代社会を〇〇化で表してみよう。	・班ごとに集めてきた記事を読み込み、記事をグループ化する。 ・班ごと現代社会に〇〇化とテーマをつける。	・記事の内容を読み込み、マーカーなどで線を引くなどの工夫をしている。【Cーイ】 ・自ら進んで班ごとの話し合いに参加	3

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごと考えた現代社会の特色をプレゼンするために模造紙にまとめ、ポスターを作る。</li> </ul>	し、ポスターにまとめている。 <b>【Aーイ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の記事の共通性を見出し、記事同士を関連づけたり、既習事項と関連づけたりしながら、ポスターにまとめている。<b>【Bーア】</b></li> </ul>	
3	ポスターセッションをもとに、自分の言葉で現代社会を説明してみよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとにポスターセッションをし、他の班の発表を聞く。</li> <li>・班ごとのポスターセッションをもとに現代社会の特色を文章に著す。 (本時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班のポスターから、現代社会の特色を見出すことができる。 <b>【Dーア】</b></li> <li>・各班のポスターセッションをもとに、現代社会がどのような特色をもつのか、文章で説明ができる。 <b>【Cーイ】</b> (本時)</li> </ul>	2
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のまとめをし、現代社会の特色として、主にグローバル化、情報化、少子高齢化があることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の特色として、主にグローバル化、情報化、少子高齢化があることを理解している。 <b>【Dーイ】</b></li> </ul>	

**【本時案】**

(1) 主眼

新聞記事から現代社会の特色を見出す場面で、他の班のポスターセッションを見たり、聞いたり、読んだりして自分たちが考えた現代社会の特色を再検討することを通して、現代社会の特色を自分の言葉で説明することができる。

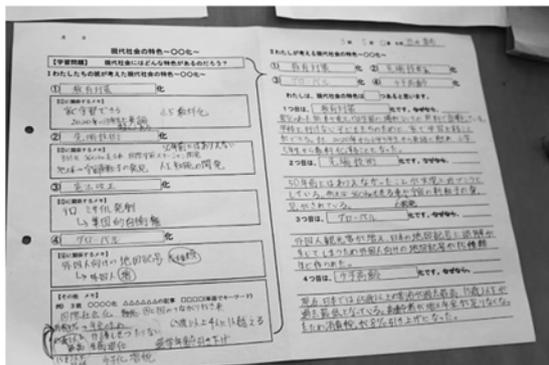
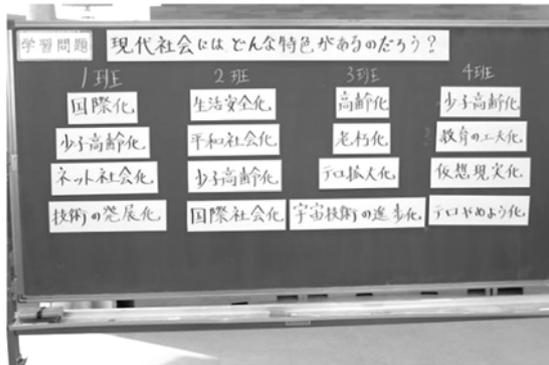
(2) 本時の位置 (全6時間中 第5時)

前時：ポスターセッションに向け、模造紙に班ごとに現代社会の特色をまとめた。

次時：現代社会の特色として、主に少子高齢化、情報化、グローバル化があることを確認し、単元のまとめをする。

(3) 指導上の留意点

- ・各班のポスターセッションの時間を3分とする。
- ・ポスターセッションの後、各班の責任者には質問を受けてもらうが、責任者も他の班のポスターを見て回れるように、質問を受ける時間をすべてのポスターセッション終了後の5分間とする。



段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助 評価	時間	備考
導入 展 開 終 末	1 班ごとにポスターセッションの準備をする。	<p>&lt;学習問題&gt;現代社会にはどんな特色があるのだろうか？</p> <p>ア 私たちの班は、現代社会の特色として3つ考えたね。記事からその根拠をしっかりと言えればいいね。</p> <p>&lt;学習課題&gt;ポスターセッションをもとに、現代社会の特色を自分の言葉で説明してみよう。</p>	◇前時までに作成したポスターをもとに、発表のための最終確認をするように各班に促す。	2分	模造紙 発表用原稿
	2 班ごとにポスターセッションをする。	<p>イ 私たちは、現代社会の特色として、少子高齢化を考えました。理由は、老年人口の増加の記事や、子育て支援などの記事が多くあったからです。</p> <p>ウ 僕らの班では、現代社会の特色として、グローバル化を考えました。なぜなら、外国人にも分かるように地図記号を替えるなどしているからです。</p>	◇ワークシートを配布し、ポスターセッションの進め方とワークシートの使い方を説明する。 ◇現代社会の特色の良さや問題点も新聞記事から分かる範囲で発表するように促す。 ◇メモを取りながら、各班の発表を聞くように促す。	21分	ワークシート
	3 各班のポスターセッションをもとに、現代社会の特色を考える。	<p>エ 1班のポスターセッションから、現代社会の特色のひとつとして、グローバル化が考えられることが分かった。</p> <p>オ 現代社会は、情報化社会であると言える。なぜなら、他の班のポスターセッションから、情報の流出やサーバー攻撃など、情報化が進んだからこそ起きている問題が多いことが分かったからだ。</p> <p>カ 私たちが生きていく現代社会は少子高齢化が進んでいる社会ということが分かった。少子高齢化にともない多くの問題を抱えているのも現代社会である。例えば、社会保障額の増加などが考えられている。</p>	◇ポスターセッションをもとに、ワークシートに現代社会の特色を自分の言葉で説明するように促す。その際、メモしたワークシートをもとに、各班のポスターを再度見ながら書くように促す。 ◇各班の責任者は、自分のポスターの所で質問を受けるように促す。 ◇記入が進まない生徒には、自分の考えと似ている、あるいは異なる班のポスターを参考に、現代社会の特色を考えるように促す。 ◇記入が早い生徒には、現代社会の特色の良さや問題点にも触れて書くように促す。	24分	
	4 文章で書いた現代社会の特色を発表し、次時への見通しを持つ。	<p>キ 僕たちがこれから生きていく現代社会の特色はさまざまであった。例えば、情報化がそのひとつである。情報化が進み、あらゆる場面で生活が便利になる一方で、情報化にともない、犯罪などがあることは問題点として考えられる。</p>	<p>ポスターセッションに進んで参加し、現代社会の特色をワークシートに自分の言葉でまとめている。(ワークシート)</p> <p>◇ワークシートに書いた現代社会の特色を2、3人の生徒に発表させ、次時への見通しを持たせる。</p>	3分	

### 【実証の観点】

- (1) 現代社会の特色を理解するために、新聞記事を活用したことは、生徒が主体的に学び、かつ、現代社会の特色を理解するための有効な手立てとなったか。
- (2) ポスターセッションを行ったことは、自分たちが考えた現代社会の特色を再検討し、自分の考えを深めたり、広めたりする手立てとなったか。



## 〈 成 果 〉

生徒が班ごとに出してきた「〇〇化」は次の通り。

- 1班：・技術の発展化 ・ネット社会化 ・国際化 ・少子高齢化
- 2班：・平和社会化 ・国際社会化 ・生活安全化 ・少子高齢化
- 3班：・老朽化 ・高齢化 ・テロ拡大化 ・宇宙技術の進歩化
- 4班：・少子高齢化 ・教育の工夫化 ・仮想現実化 ・テロやめよう化
- 5班：・教育対策化 ・先端技術化 ・憲法改正化 ・グローバル化
- 6班：・国民 Happy 対策化 ・少子高齢化 ・インターネット化  
・暗い世のな化
- 7班：・技術の進化化 ・進出化 ・情報化 ・国際交流化

発表・意見交換の後、生徒たちの中には「〇〇化」の根拠を探し出すために各班の新聞記事をじっくりと読み込む姿が見られた。「〇〇化」としたことで「化」につなげなければならず、逆に難しい言葉になってしまった班もあったが、言葉は適切でなくとも、生徒の使った言葉こそが子どもが捉えた社会であったと考える。教科書の言葉「少子高齢化」「情報化」「グローバル化」を導き出した班もあったが、私たちが生活している現実、生徒たちが使った言葉のようにもっとでこぼこしたものなのかも知れない。それぞれの班の発表を聞いた後、生徒たちは個にかえり、自分のつけた「〇〇化」をもう一度再検討した。その中で、友の言葉が付け足されていたり、もっとじっくり来る言葉を取り入れたりする姿が見られた。

## IV 研究のまとめ

今回このような機会をいただき、2年間の実践を通じて感じたことは、新聞を活用することにより、社会そのものを見る視点やポイントの見え方が違ってくるということである。ネット社会の現代。ネットの方が便利で早いのかも知れない。しかしネットでは根拠が分からない。じっくり記事と向かい合うことで、事象を関連づけていく力、つなげていく力がつき、やがて考える力がつく。それこそが社会科の教科が狙っている力なのである。事象を身近なものとして捉え、様々な立場、側面から考えることができる。根拠を持って自分の考えを言える。自らが発信できる場面設定を実現させるために大変有効であった。

また、教科書では現代社会の特色を前述の通り、「少子高齢化」「情報化」「グローバル化」そして「持続可能な社会」の4つのキーワードであらわしているが、生まれたときから情報社会の中にいる中学生にとっては、現代はもはや「情報化」ではないのかも知れない。バーチャルな世界や宇宙技術の進化などの方が彼らの目には新鮮に映るのだろう。そんなことも考えさせられた。